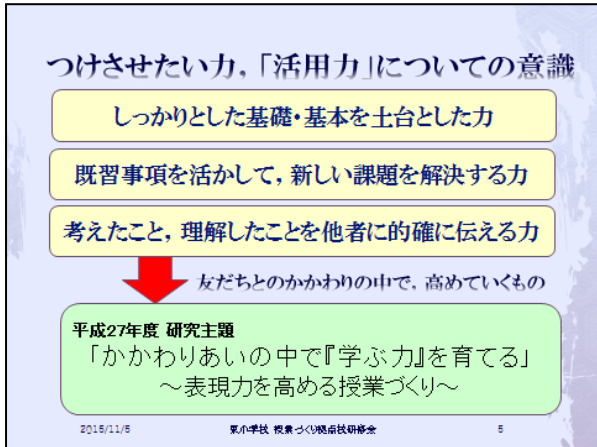


授業づくり拠点校研修会にかかる実践事例

1 研究の経過

(1) 学校全体での取組

本校では、「活用力」を高める授業づくりを進めるにあたり、全教職員により「活用力とは何か」ということを議論することから始めた。その結果、次のように共通理解を行うに至り、これまでの本校での取組の成果を活かし、「かかわり合いの中で『学ぶ力』を育てる～表現力を高める授業づくり～」を研究主題とし、取組を進めていくこととした。



(「活用力」についての意識)

また、本年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析したところ、正答率が低かった問題や、無答率が高かった問題の中に、「わけを書く」ことが求められているものが含まれていたことから、「考えたことを表現する」力を身に付けさせることが重要であるという認識を共にすることができた。

という認識も全校で共有できたため、次の2点について学校全体で取組を進めた。

① 朝の学習時間の活用

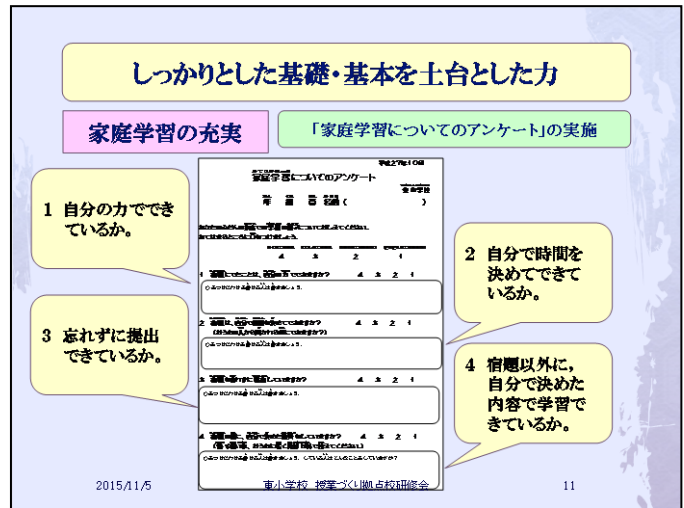
専科教員が輪番で各学年の補助に入り、きめ細かな指導を行うことにより、基礎・基本の力の定着をめざす。

② 家庭学習の充実

ア 「家庭学習の手引き」を作成し、家庭との連携を図る。

イ 自主学習を奨励することにより、主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。

ウ 家庭学習についてのアンケートを実施し、児童の実態の変容をつかむ。



(「家庭学習についてのアンケート」)

このアンケートの結果から、次のような成果が認められた。

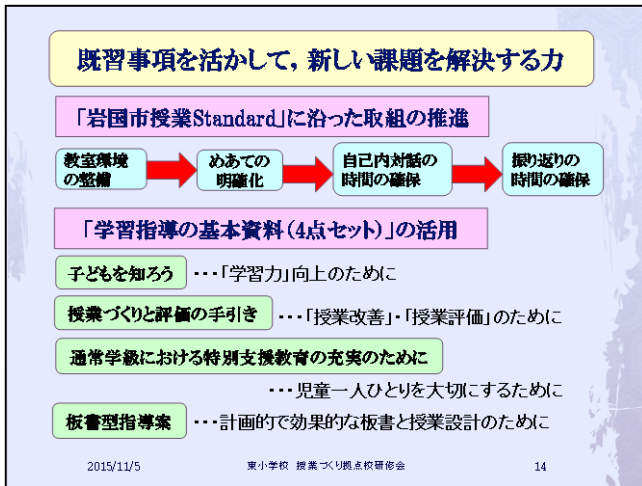
○自分で時間を決めて家庭学習を行っている児童の人数が増えた。

○宿題以外に、自分で決めた内容で学習できている児童の人数が増えた。

これらのことにより、基礎・基本の力については、徐々にではあるが定着をみることができている。

次に、「既習事項を活かして、新しい課題を解決する力」を授業の中でどうつけさせていくかについては、次のように取組を進めた。

(授業改善のために)



日々の1時間、1時間の授業を充実させ、子どもたちの『学ぶ力』を伸ばしていくために、我々は「岩国市授業 Standard」や「学習指導の基本資料(4点セット)」を活用し、授業の環境整備をはじめ、「めあての明確化」、「振り返りの時間の確保」等の授業改善を行った。

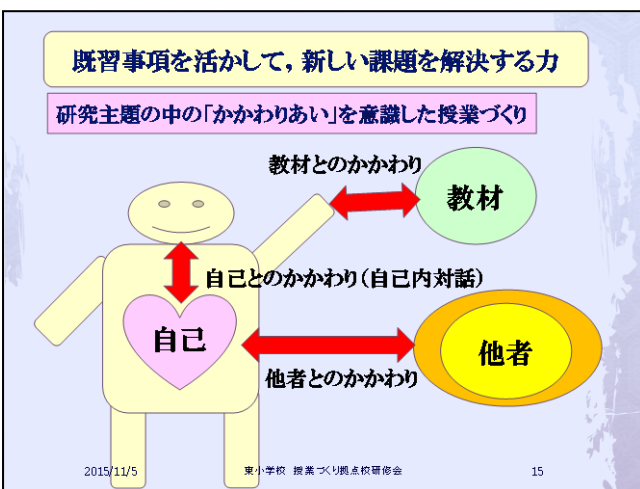
授業スタイルについては定着をみており、めあての明確化や振り返りの時間の確保については、どの学級でも行われている。

また、授業づくりの中で、「かかわりあい」をどうとらえ、「学ぶ力」の育成をどう意識したかについては、左図のとおりである。

かかわりあいには、「自己とのかかわりあい」、「教材とのかかわりあい」、「他者とのかかわりあい」の3つがあると捉え、授業づくりの中で意識した。

また、その中でも「他者とのかかわりあい」の中で、子どもたちは考え方を深めたり広げたりすることができる喜びを感じ、学び方を蓄積することができる考えた。

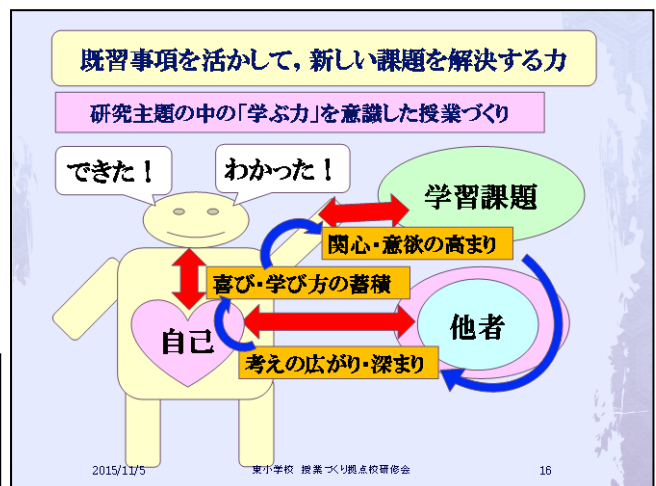
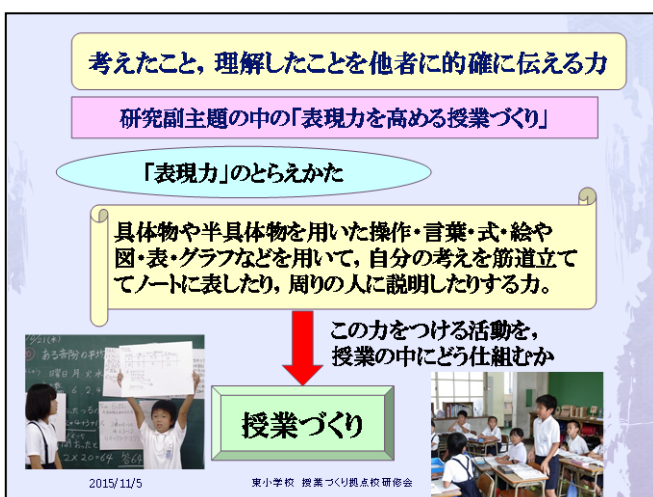
そのことが、関心意欲を高め、新しい学



習課題に向かう力になると考えた。(右図)

そこで、他者とのかかわりあいを円滑にし、意見の交流が充分に行えるようにするためにも、我々は「表現力」をつけることを意識した。

「表現力」の捉え方については、下図のように考えた。



この力をつけるために、学年に応じた「話型」を校内研修の中で検討して作成し、教室前面に掲示した。

2 公開授業の指導案

研修会での公開授業は、2年生と5年生で行った。紙面の都合上、本時案のみ掲載する。

1 単元 かけ算(1)

(1) **ねらい** 自分たちのつくったかけ算の問題を解き合う活動を通して、かけ算の問題場面を表現したり、問題場面と式との整合性を判断したりすることができる。

(2) **準備** 九九カード、もんだいカード、こたえカード

(3) **学習の展開**

学習活動・学習内容	指導上の留意点
1 九九カードでカルタ遊びをする。 ・問題場面のイメージ	○既習の2～5の段の九九カードを使って遊ぶことを通して、問題づくりへの意欲付けを図る。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> かけ算になる問題をつくって ときあおう </div>	
2 問題のつくり方を発表する。 ・基準量といくつ分の関係 ・絵、文、式・答えの対応	○何を求める問題かを確認し、教科書の空欄に数字を書き込むことで、基準量といくつ分をとらえることができるようにする。 ○基準量を絵に書き込むことで、問題が正しくできたか確かめることができるようにする。
3 「もんだいカード」を作る。 ・かけ算が適用される場面の表現	○個の実態に応じて、「もんだいカード」は式・答え、絵、文のどれからかいてもよいこととする。 ○問題の題材が見つけない児童には、教科書P20の挿絵や「九九カード」などを参考にさせることで、かけ算の問題場面を表現することができるようにする。 ○早く完成した児童は、問題が絵、文、式・答えが対応しているかを確認することができるようにする。
4 問題を解き合う。 (全体) ・交流の仕方の確認 (グループ) ・かけ算が適用される場面の理解	○問題を全体で解くことで、交流の手順が理解できるようにする。 ○出題に間違いがあった場合の修正の仕方を確認することで、自分たちで問題場面と式の整合性を整えることができるようにする。 ○「こたえカード」に式・答えを書いた後、式・答え、立式の理由を説明することで、かけ算の問題場面と式の整合性を判断することができるようにする。 ○グループ内で、順番に出題し解き合い、「基準量」と「いくつ分」を絵と問題文で確認することで、かけ算の問題場面と式の整合性を判断することができるようにする。
5 振り返りをする。 ・問題づくりを通しての気づき	○問題づくりと、解答の観点から振り返りを行うことで、学びの過程を意識し、学びの実感と広がりを感じることができるようにする。

(4) **評価**

進んでかけ算の問題をつくったり、解いたりすることができたか。(関心・意欲・態度)
 かけ算の問題場面と式の整合性を判断することができたか。(数学的な考え方)

1 単元 平均とその利用

6 本時案 (7/9)

(1) **ねらい** 大豆を約100個ずつ分ける方法を話し合うことを通して、工夫して平均を活用することができる。

(2) **準備** 大豆・電子天秤・カップ・平皿・画用紙・学習プリント・電卓・マーカー・大豆100個入りのサンプル・メスシリンダー

(3) 学習の展開

学習活動・学習内容	指導上の留意点
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 約100個入りの大豆をできるだけたくさん用意します。 速く簡単に用意できる方法を考えよう。 </div>	<p>○実際に大豆を提示し、児童に必然性のある課題となるようにする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 0 auto; width: 80%;"> (平均) を使ってできるだけ速く簡単に大豆を分けよう </div>	
<p>2 速く簡単に大豆を用意する方法について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均の活用 ・具体物を使った操作活動 ・式や言葉、図を用いた説明 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「大豆100個の重さをn回計り平均を出す。」 「大豆1個分の重さをn回計り平均を出す。」 (1個分の重さの平均を100倍する。) </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「大豆100個の体積をn回計り平均を出す。」 (カップの底から100個分までの高さ) (大豆100個分の体積) </div>	<p>○100個入りの大豆のサンプルを用意することにより、平均を使う方法を導く手助けとする。</p> <p>○使用できる道具や、有効桁数、概数の求め方を黒板に提示することにより、課題解決の算数的条件を確認させる。</p> <p>○発表では、平均をどのように使ったのかをはっきりさせた説明が必要であることを助言する。</p> <p>○大豆を使って実際に操作活動を通して、グループでの思考を深める。</p>
<p>3 全体で考えを深め合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で速く簡単にできる方法 	<p>○班ごとの考えを分類して提示することで、それぞれの考えを比較し、よりよい方法を見つけられるようにする。</p>
<p>4 本時のまとめと振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均を使うよさ 	<p>○振り返りを学習プリントに記述することで本時の学習の自己評価をさせる。</p>

(4) 評価

平均を使って大豆をできるだけ速く、簡単に分ける方法を考えることができたか。
 (数学的な考え方)

3 研究協議での意見や提案

< 2年生の授業について（下学年部会） >

【成果】

- ・学習環境、学習規律といった、基盤となるものがしっかりしていた。
- ・教室の中に、かけ算の問題づくりに活かせるヒントがちりばめられていた。（学習環境の整備）
- ・キーワード等で基準量がいくつ分であるかがよくおさえられており、学ぶ力につながった。
- ・子どもたちへの意欲付けがよくできていた。活動の姿勢がとてもよかった。
- ・子どもたちが、友だちの意見をよく聞いて、自分の考えを直すことができていた。



（下学年部の協議のようす）

【課題】

- ・問題を作って、解き合う時間を確保するとよい。
- ・かけ算の必要性を押さえると、生活に活かせるのではないか。
- ・問題作りがうまく進まない児童への支援の仕方に一考を要する。
- ・ICTの活用により、絵を提示できるとよい。
- ・振り返りの内容は、本時の学習内容に関わるものになっていくとよい。
- ・グループ内での聞き方、発表の仕方のきまりを確認するとよい。

【指導講話】

- ・問題作りは、価値の高い授業である。
- ・子どもたちの生活の中にある、現実に価値のあるものを取り上げると、子どもたちへの意欲付けにつながる。
- ・めあての提示については、子どもたちが学習する内容をつかんでからにすると、学習の見通しがもてる。
- ・まず、絵を示し、そこから考えられる式を示し、最後にお話を作る、という流れだと、子どもたちの思考の流れがスムーズになる。
- ・見通しと学習課題をセットで設定するとよい。
- ・教科書に書かれている文章は、よく練られた簡潔な文章になっているので、参考にさせるとよい。（子どもたちが文章化するのは難しいため。）



（指導講話のようす）

< 5年生の授業について（上学年部会） >

【成果】

- ・準備・導入が工夫されていて、子どもたちが意欲的に取り組んでいた。

- かかわりあいが積極的に行われており、他のグループの意見を聞く姿勢もよい。
- 実物を使うことにより、児童の興味関心が高まっていた。
- 個人からグループへ、グループから全体へと意見をつなげていく中に教師がかかわることで、子どもたちの「表現する力」が育つと思われる。
- 子どもたちに、「話して伝える力」が育っている。
- 学習規律が定着していた。



(上学年部の協議のようす)

【課題】

- 「平均」の考え方を扱う必然性が生まれるような流れが必要である。
- 学習のめあてにある、「すばやく」というのが、学習の中では達成できていない。
- めあてに基づいて、振り返りを行う必要がある。
- 最善の方法は何かということを決めることも必要なのではないか。
- 児童にとって、生活の中でかかわりの深い教材を選ぶとさらに意欲を高められるのではないか。

【指導講話】

- 子どもたちの姿がよかった。
- グループの中に他のグループの話合いを聞いての復伝係などの役割があるのは、技法としておもしろい。
- 「平均が生活の中で使えるんだ！」という場面があることを感じとらせる授業の位置付けが重要である。
- 「かんたん」、「すばやく」がキーワードだったが、「どれがかんたん？」という吟味は難しい。
- 子どもにとっての「かんたん」と、算数における「かんたん（効率的）は、必ずしもイコールではないので、議論が成立しにくいことも考えられる。代案としては、「できるだけたくさんの方を考える。」ということが挙げられる。
- 情報収集が必要なため、ホワイトボード等を利用して、交流を図るとよい。
- 本日のねらいだと、平均には迫りにくい。精選させるのが困難なので、教師が平均を利用したものを取り上げ、そのよさを班で考えさせる活動を設置したらよかったのではないか。



(指導講話のようす)